

あなたの「できること」を お手伝いください

地域には様々な「できること」をもった方がいます。

『ぴぽらバンク』は、そうした方々を登録する人材バンクで、地域や学校などから依頼があったときに、お手伝いをお願いするものです。

「できること」といっても、特別に得意という必要はありません。「これなら少しは手伝えるかもしれない」という程度でかまいません。

また、登録したからといって、すべてのボランティアに参加する必要もありません。無理をせず、あなたの「できること」を「できる時間」に、お互いに「できること」で助け合いながら交流し、支え合います。

■申し込み・問い合わせ
教育委員会社会教育係
☎085・2262

現在登録されている「お手伝いできること」

- 農業体験／昔遊び／手芸・工作
 - 学習サポート・理科実験／絵画・絵手紙／料理／イベント手伝い／傾聴／自然ガイド（突哨山・旭岳・紅葉ガイド／除雪／庭木の剪定・消毒／電気器具の診断／子ども・高齢者・障がい者とのかわり／封筒のあて書き／鋳物作り／スノーモービル／紙しばい・大人の読書会／着付け・着付け指導
- ※内容によっては、材料費などがかります。

お手伝い募集中

- ①ぶっくん寺子屋
8月6日（月）・8日（水）
午前9時～午後0時30分ごろ
- ②子どもニジマスつり体験
8月9日（木）
午前9時～正午ごろ
- ③中央小学校の稲刈り
9月21日（金）午前中



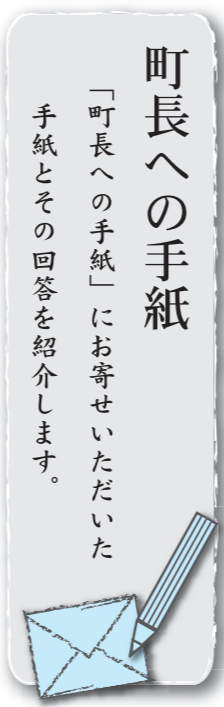
①ぶっくん寺子屋



②子どもニジマスつり体験



③中央小学校の稲刈り



町長への手紙

「町長への手紙」にお寄せいただいた手紙とその回答を紹介します。

比布町の判断に頼りますが、私たち以外でも、町内の大勢の方が関心を集めていると思われまます。何卒、ご拝領をお願いいたします。

（経塚 義和）

町長からの回答

新聞などで「旭川市の共同墓のご使用を検討されている皆様へ」という文面を見ました。

私たち家族も、仏壇もなく、墓もなく、跡継ぎの子もなく、今後の事を考えると不安になります。

旭川の共同墓の利用を考えましたが、私たちもここ比布町に暮らしている以上、比布で共同墓の利用を考えたいと思います。

お手紙をいただきありがとうございます。お寄せいただきました「共同墓」の件についてお答えします。

墓地や葬送のあり方については、近年、少子高齢化の進展や家族の多様化で考え方も様々であり、必ずしも墓石を必要とせず、家系によらない個人や合同での葬送も増加しています。

お手紙にある、旭川市が整備を検討している「合同墓」について、旭川市では市営の火葬場「旭川聖苑」の敷地内に合同墓を整備し、今年の9月から供用を開始します。

利用は、申請者や納める焼骨が旭川市周辺上川中部8町の住民や市営墓地の利用者が対象で、規模は最大1万体の収納が想定されています。

利用料金は旭川市民は1体2万6千円、上川中部8町の住民は3万9千円（予定）で、概要や今後のスケジュールについて旭川市の担当者による説明会が5月と6月に開催されました。本町からも利用される方も予想されます。

本町としては、墓地は町民の生活にとって必要とされる施設でもあるため、旭川市の「合同墓」の様子も伺いながら多様化する新しい形態の墓について今後検討をしていく必要があると考えます。

葬送のあり方について考えることは、人生の集大成や終末期の過ごし方を見つめなおす大切な関心事でもあることから、町民の皆様が安心される葬送の環境づくりに向け研究したいと思えます。

比布町学校運営協議会 準備委員会を発足

町では、平成31年度からコミュニティ・スクールを導入します。充実したよりよい組織・魅力ある組織を検討するため、比布町学校運営協議会準備委員会を6月29日に発足しました。

この後、一年間かけて活動を続けていきます。

コミュニティ・スクールとは？

学校運営協議会を置く学校のことです。学校運営協議会は、学校運営や学校課題に対して、広く保護者や地域住民の皆さんが参画できる仕組みです。社会総掛かりでの教育の実現を目指しています。



なぜ「コミュニティ・スクール」？

これからの時代は、予測不可能の時代といわれています。これからの学校は、変化の激しい社会の動向にしっかりと目をむけ、教育課程を工夫し、教育活動を展開する必要があります。

そのため、保護者や地域住民とお互いの情報や課題を共有し、「これからの時代を生きる子どもたちの未来のために」という共通の目標・ビジョンをもって、同じベクトルで日々の教育活動を進めていきたいと考えています。

コミュニティ・スクール (学校運営協議会を置く学校)

